

令和6年度 第4回 横須賀市文化財専門審議会

議 事 録（抄録）

日 時 令和7年（2025年）2月28日（金）

場 所 浦賀奉行所跡

参加者 文化財専門審議会委員 〈敬称略〉

委員長 平田大二 : 地質 神奈川県立生命の星・地球博物館館長

委員 勝山輝男 : 植物 元神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員

正垣孝晴 : 地盤工学・土木史 元防衛大学校教授

瀬谷貴之 : 彫刻 神奈川県立金沢文庫主任学芸員

西川武臣 : 古文書・歴史資料 横浜開港資料館館長

水沼淑子 : 建造物 関東学院大学名誉教授

矢島國雄 : 考古 明治大学名誉教授

（欠席）相澤正彦 : 絵画 成城大学名誉教授

（欠席）剣持輝久 : 考古・郷土史 赤星直忠博士文化財資料館館長

（欠席）安室知 : 民俗 神奈川大学大学院歴史民俗資料学科研究科

事務局：生涯学習課長 杉山賢一、同主査 川本真由美、同主任 磯口健太郎、同担当者
佐藤佑吏

内容 〈敬称略〉

1. 開会

2. 視察 浦賀奉行所跡

○事務局より遺跡の解説と視察

・調査区（TP）14について

平田：この地業を第Ⅰ期の地業とする根拠は何か

事務局：まず、他の調査区でみられる地業と比較して標高が低いことである。加えて当調査区内の西側にサブトレンチ（深掘り調査区）を設定し、掘削した結果、当該地業面の1m48cm下から水田の層を確認している。絵図から推測すれば、当調査

区は、奉行所のⅠ期～Ⅲ期が存在する地点となっており、青色の水田層の上の地業ということでⅠ期と判断している。

水沼：石敷きの上にある茶色のレンガが混入する土は、いつのものか。

事務局：住重の社宅建設に伴う基礎を築造する際にかき混ぜられてしまった土と考えている。補足をすれば、現在調査区で確認出来ているⅠ期地業面も地業の下が残っているだけであり、Ⅰ期地業の上面やⅡ期、Ⅲ期の地業面などは全て攪乱されてしまっていて残存していない。

正垣：この水田層の下はどうなっているのか

事務局：貝殻などを含む、砂層の海生堆積層が堆積している。

・調査区（T P）16について

西川：間知石の位置は、Ⅰ期の境界としていい場所かもしれないが、標高が高いような気がする。

事務局：標高の問題は、こちらとしても気になっている。来年度以降の調査で調査区の南側へ調査範囲を拡大し、間知石がどこまで続くのかを調査していく予定である。

・調査区（T P）9について

瀬谷：地業面上に見られる陶磁器は、微塵唐草なので幕末でよいと思うが、時期は問題ないか。

事務局：問題ない考える。本調査区は、陶磁器・貝が面として広がっており、江戸の終わりと考えられる瀬戸美濃の徳利も出土している。遺物が出土した様相から、調査区の外側へ陶磁器・貝の広がりが続いていると推測されるため、来年度以降は調査区の外側まで範囲を拡張して調査したい。

・調査区（T P）1について

水沼：奉行所が廃絶した後、どうなったのか記録は残っていないのか

西川：文献は確認されていない。

基本的に江戸、浦賀とでそれぞれ文書を保管していたはずだが、江戸の資料は関東

大震災の時に焼けてしまった可能性があり、浦賀の資料は何処かへ行ってしまったと考えられる。

瀬谷：曳家をした可能性はあるのか

西川：その可能性は十分あると思われる

・調査区（T P）2について

事務局：庭の遺構と考えられる石敷きについて、この赤い石材は火成岩か

平田：この石材は砂岩である。こういった砂岩は、小仏山地の可能性はあるが石材を細かく観察してみないと断定はできない。

事務局：この調査区でだけこういった河原石の整地をしているが、この石材はどこの産地のものか。

平田：走水の方に礫層が存在するので、そこの石である可能性が存在する。

正垣：河原石を敷き詰めているのはどういった理由か

矢島：河原石を敷き詰めて庭の整地を行う行為は、ここに限らずほかの遺跡でも類例が見られるものである

事務局：絵図面から、Ⅲ期にこの周辺に庭が存在することが分かっており、指導に来て下さった先生も別の遺跡でこういった石を敷き詰めて庭にする遺跡を確認しているので、庭の可能性が高いと考えている。

・調査区（T P）4について

事務局：調査区の東側でオレンジ色の土のような物質を検出したが、これは何か。

瀬谷：漆喰ではないのか

事務局：漆喰と似てはいるが、漆喰とは異なるものと考えている。

水沼：これは薄い。こういった類のものはあまり見たことがないが、砂壁かもしれない

矢島：砂壁としたら色が黄色というのはあまり見たことがない。

事務局：一応、時期としてはⅢ期地業を形成しているなかに入っているので、Ⅱ期のもの
と思われる

水沼：少し持ち帰り分析を行ってみようと思う

平田：調査はいつまで実施するのか

事務局：今年度は、3月25日まで実施する予定であり、来年も同じ時期に調査を行う。

○視察終了